

# 津軽白神 ふれあい通信

津軽白神森林生態系  
保全センター

平成26年10月31日発行 No.101



## 「津軽白神ふれあい通信」100号に寄せて

東北森林管理局 山形森林管理署 次長 浅利 一成  
(第二代所長 平成21年4月1日～平成23年5月15日)

「津軽白神ふれあい通信」100号発行達成おめでとうございます。

当センターが設置されてから8年を経過したわけですが、私が在勤したふれあいセンター一期間（平成21年4月1日～平成23年5月15日）から既に3年余り経過し月日の流れの速さを感じています。

当センターにおいては、センター主催の諸活動をはじめ他団体が主催する様々な会議や活動・イベント等に参加し思い出は多々ありますが、まずもって当センター主催の自然再生活動や地域住民とのふれあい事業、白神山地巡視活動など各種活動・イベントに多くの方々に参加いただいたことに感謝申し上げます。

さて、印象に残る出来事として、平成23年3月11日に発生した東日本大震災が上げられます。当日はつがる市のイオンモールつがる柏店において、当ふれあいセンターの活動展を開催中であり、平日のためか店内の客も少なく、よって活動展に来る方も少ない中で穏やかに時が過ぎていました。そんなときにこれまで経験した地震では感じたことのない程の横揺れが長く続き、非常に不安な気持ちを感じたこと。その後、活動展を中止し帰路の車中でテレビを見た際に、映し出された津波の凄さに驚きながら鱒ヶ沢町のセンターに向かったことが思い出されます。

その後は皆さんもご承知のとおり、停電、ガソリン不足、水や食料不足と身動きが取れない状況となり、職場内でのネット上でやりとりされる被災地支援へ向けた行動状況を見ながら、ガソリン調達もままならない状況の下、当センターなりに何かできないかと思いつつ何もできなかったなど痛感したものです。

最後になりますが、当センターの名称も”ふれあい”から”生態系保全”へと変化し、今後は森林生態系保全を重視する方向で世界自然遺産の白神山地をはじめとする国有林の管理経営を進めることと思いますが、地域住民から必要とされる存在に向けて各種活動を進められることを望んでおります。

## 「山の日」 制定イベント暗門の滝で森林教室を開催しました

10月22日（水）暗門の滝で「山の日」制定記念イベント森林教室（秋の白神山地に学ぶ）を開催しました。

この日は、リピーターの皆さんもさることながら、鱈ヶ沢町のALT（外国語指導助手）や、マレーシアからの旅行者の方も参加され、英語によるガイドも実施し国際色豊かな森林教室となりました。

当日は紅葉のまっただ中で、ヤマモミジの赤やイタヤカエデの黄色が日に映え、参加者の皆さんの目を楽しませていました。

外国人の方は、日本の紅葉の様子や、日本国内に自生するカエデとカナダの国旗にデザインされているサトウカエデとの違いなどについて、興味深げに聞き入っていました。

この日は前日までの雨の影響で暗門第三の滝までしか散策できませんでしたが、水量の多いダイナミックな滝の様子を見て、参加者の皆さんは迫力に圧倒されていました。

午後からは、樹齢400年と言われるマザーツリーを見学しました。

参加者の皆さんは、黄葉の進んだ巨木を見ながら職員の解説に聞き入っていました。



帰路は、新しく開通した県道28号線陸橋の上から、紅葉の山々を眺めることもでき、参加者の皆さんには満足いただけただけのと思っています。

「山の日」は8月11日を山の日として今年度に制定され、平成28年から祝日として施行されます。



## 秋の十二湖自然休養林で森林教室を開催しました



10月25日（土）22名が参加して、秋の十二湖での森林教室を開催しました。

22日の暗門の滝に引き続きこの日も好天に恵まれ、紅葉真っ盛りの十二湖の風景を堪能できました。

この日は、当センター職員のみではなく十二湖のガイドさんにも来ていただき、我々職員の解説とはまたひと味違った解説をしていただきました。

秋の十二湖は、やはり春とは趣が異なり山いっぱいの紅葉はもとより、秋の果実なども参加者の皆さんの目を楽しませていました。

ユキザサやマムシグサなども真っ赤な実をつけ、参加者のみなさんの興味を引いていました。

今年度の当センターでの森林教室は今回で終了ですが、来年度以降また、皆様に様々なイベントを通じて森林や環境の大切さをお伝えできればと考えています。



## 日本山岳会へ安全指導を実施



指導に聞き入る参加者

10月4日（土）日本山岳会の自然再生活動にあたって、当センター所長が安全指導を行いました。

活動箇所付近でクマが生息していることから、クマよけの対策を呼びかけ、山岳会の方々も熱心に聞き、具体的な対策についての質問などもありました。

当日はあいにくの雨でしたが、日本山岳会の皆様は気を引き締めた様子で、自然再生活動箇所へ向かい、この日の作業を開始しました。

## JICA研修生を白神山地に案内しました



センサーカメラの概要説明



ビジターセンター前でパチリ

10月8日（水）インドネシアからの JICA 研修生が当センターに来所し、自然再生の取り組みなどについて、視察を行いました。

当日はまず、石田所長から当センター内で、自然再生活動等の概要に

ついて説明を行いました。その後自然再生活動拠点に場所を移し、当センターで実施している自然再生活動の現状について説明をしました。

また、今年度から重点的に実施しているニホンジカ生息調査のためのセンサーカメラの設置状況も視察しました。

その後場所を白神山地ビジターセンターに移し、相馬ビジターセンター館長から白神山地の成り立ちや現状、世界遺産に登録された意義などの説明を受け、日程を終了しました。

## 白神山地ビジターセンターふれあいデーに協賛



ここはスレてないかな？

10月18日（土）、19日（日）の両日、白神山地ビジターセンターふれあいデーが開催され、当センターから職員が参加し、親子木工教室を行いました。

18日は雨天にもかかわらず、開始時刻の1時間以上も前から行列が出来ていました。

参加したお子さん達は、慣れない手つきでドライバーを回し、時折お父さんお母さん達にも手伝ってもらいながらラックを組み立てていました。

参加者の方からは、「後で色を塗るとおもしろいかもね」とか、「何の木で出来てるんですか？」などという質問もありました。

当センターでは、今後もこのようなイベントを通じて木材の有効活用や、森林環境の大切さなどについてお伝えして参りたいと思います。



完成品を持って記念撮影

## 東京からの修学旅行生を案内しました



10月23日（木）、東京都文京区の私立桜蔭中学校からの修学旅行生230人が「白神の森遊山道」を散策し、鱒ヶ沢観光協会の要請により当センターからも職員がガイドの補助として参加しました。

当日は朝の気温が下がったことに加え、数日前までの雨で散策路もぬかるみ、東京からの生徒達は都会とのギャップに驚いていました。

ブナやミズナラの大きな木の下に、芽を出したばかりの稚樹があったり、中心部が空洞になっているにも関わらずなお生き続けている木を見たり、生徒達にとっては不思議がいっぱいの空間のようでした。

また東京に戻ってもこの日に見た自然を思い起こして、将来にわたって生活を楽しんでいける力を発揮してもらえることを願いました。

## ～職員のコラム～

生態系管理指導官 鈴木 修

我が愛車、ホンダ アコード。

平成11年10月3日に納車されてから、ちょうどこの10月で満15年となりました。

この間、文字通り雨の日も、風の日も、夏の暑さや降りしきる雪にも負けずに、主人の意に従い、ただひたすらに、しかも忠実に任務を遂行して下さっております。

現在の走行距離、219,293 km。要したガソリンの量は、16,559ℓでドラム缶にして83本分です。地球を6周目となり、改めてその走行距離に、そして化石燃料の消費量と費やした運転の時間数に感心したり驚いたりしています。

本愛車の任務は、主に通勤及び、単身赴任における自宅と赴任先との往復となっておりまして、自宅のある現滝沢市を中心に、南は岩手南部署、東は三陸北部署、西は岩手北部署、そして北は津軽白神センターと広範囲を担当してもらっています。

今まで、大きな病気やケガも無かったのですが、先月、とうとう車輪を支えるベアリングがダメとのことで、交換の整備をいたしました。でもその後は、快調・快調！

忌野清志郎よろしく、バッテリーもエンジンもビンビンで、外見だってまだまだバッチリなのですが、やはり、寄る年波には勝てないのか・・・。

愛車には、なんとかもう少し頑張っこの冬を乗り切っていただいて、来年3月、私の定年退職とともに、感謝の気持ちを込めつつその任を解くことにいたしますか！

津軽白神森林生態系保全センターホームページ

<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/tugarusirakami/index.html>